

第5章 災害後の支援業務

5.1 紀伊半島における災害後の支援業務*

5.1.1 近畿地方整備局への支援

台風第12号の大雨により、紀伊半島の各地で大規模な河道閉塞が形成された。重大な土砂災害の発生する可能性が高い状況となったことから、近畿地方整備局は土砂災害防止法に基づき、9月8日に土砂災害緊急情報を発表した。これらの地域における二次災害及び被害拡大防止のため、大阪管区気象台は気象の解説や情報提供を行うことで近畿地方整備局の緊急調査及び緊急対策工事を支援している。それら支援の内容を以下に記述する。

5.1.1.1 近畿地方整備局災害対策本部への職員派遣

近畿地方整備局等の実施する緊急調査及び緊急対策工事が安全性を確保しつつ迅速に行えるように、大阪管区気象台では9月9日から近畿地方整備局災害対策本部へ職員を派遣し、迅速な支援対応のための情報収集及び気象解説を実施している。派遣は、同整備局との連絡調整及び情報収集を行うための要員（以下「リエゾン」と記述する。）1名を終日（おおむね9時～21時）常駐させるとともに、気象解説を行う要員（以下「解説要員」と記述する。）については、1日に2回程度開催される同整備局の災害対策本部会議等の開催時に派遣する体制で開始した。大雨が予想される場合には、夜間にもリエゾンを常駐させつつ、必要に応じて解説要員を派遣した。

9月22日からは、管内官署や当台技術部各課からの応援体制を確保したうえで、当台技術部予報課に「近畿地整災対応対応班」を設置し対応にあたった。9月26日以降は、解説要員がリエゾンの業務を兼ね、常駐することとした。

11月12日以降は、同整備局の体制縮小に伴い、同整備局の会議開催時に解説要員を派遣することとした。

5.1.1.2 近畿地方整備局を支援するための各種資料

大阪管区気象台から、近畿地方整備局災害対策本部へ提供を行っている資料の内容を以下に記す。

(1) 台風第12号の被災地に関する天気解説資料

第5.1.1図及び第5.1.2図は、奈良県南部及び和歌山県南部で予想される天気や雨量及び留意事項をまとめた資料であり、近畿地方整備局の当日及び翌日の体制の判断や週間スケールの工事の工程管理等を支援することを目的に提供した。資料は予想される天候により使い分けた。

資料の提供開始時期は9月9日から、提供頻度は同整備局の会議等の開催に合わせ、1日2回（13時及び18時）とした。12月7日以降は、同整備局が気象庁ポータルサイトに掲載されている被災市町村ごとの気象予測資料（後述）を入手、利用することとした。

(2) 河道閉塞地点付近に対する雨量予測資料

第5.1.3図は、土砂災害緊急情報が発表されている河道閉塞地点付近（奈良県五條市大塔村赤谷地区、同県野迫川村北股地区、同県十津川村長殿及び栗平地区、和歌山県田辺市熊野地区）における24時間先までの3時間ごとの雨量等をまとめた資料である。同整備局では、この雨量予測値を用いて流出解析を行い、湛水池の越流の可能性を判断した。

資料の提供開始は9月10日（北股地区は9月

* 大阪管区気象台 榎本 淳一，古田 圭

復旧作業担当者向け専門資料

台風第12号の被災地に関する天気解説資料

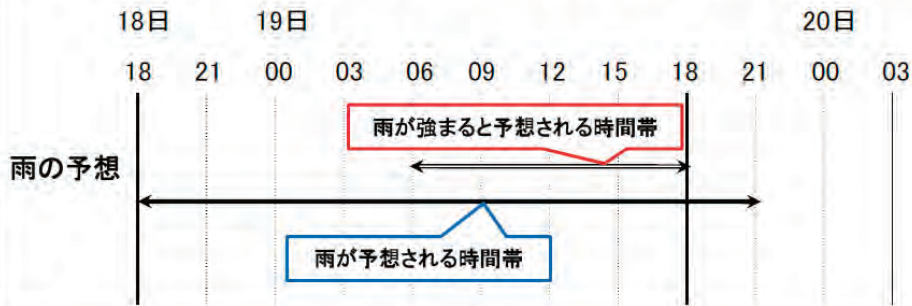
平成23年11月18日18時
大阪管区气象台

【留意事項】

- ◎17時現在、奈良県南部及び和歌山県南部では、弱い雨の降っている所があります。
- ◎これから19日夜のはじめ頃まで雨が降り、19日の朝から夕方にかけて雨が強まる見込みです。
- ◎18日18時～19日18時の雨量は、多いところで250ミリが予想されます。

【予想雨量 18日18時～19日18時】

1時間雨量 多いところ 50ミリ 24時間雨量 多いところ 250ミリ



【和歌山県の海上の波】

北部 18日 3メートル 19日 3メートル
南部 18日 3メートル 19日 3メートル → 4メートル

第 5.1.1 図 台風第 12 号の被災地に関する天気解説資料 (大阪管区气象台発表)

復旧作業担当者向け専門資料

台風第12号の被災地に関する天気解説資料

平成23年10月26日13時
大阪管区气象台

【留意事項】

- ◎12時現在、奈良県南部及び和歌山県南部では、雨を観測している所はありません。
- ◎これから27日にかけては、移動性高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。
- ◎1週間先までの天気は、以下のとおりです。

【予想雨量 26日12時～27日12時】 1時間雨量 0 ミリ 24時間雨量 1 ミリ

【週間天気予報】

奈良県

日	27日(木)	28日(金)	29日(土)	30日(日)	31日(月)	1日(火)	2日(水)
天気	晴時々曇	曇時々晴	曇時々晴	曇	曇時々晴	晴時々曇	晴時々曇
降水確率(%)	0/0/0/0	20	30	40	30	20	20
最高気温(℃)	20	22	23	21	23	24	24
最低気温(℃)	6	10	11	13	13	12	13

降水確率の1日目は、0-6/6-12/12-18/18-24時です。

和歌山県

日	27日(木)	28日(金)	29日(土)	30日(日)	31日(月)	1日(火)	2日(水)
天気	晴時々曇	曇時々晴	曇時々晴	曇	曇時々晴	晴時々曇	晴時々曇
降水確率(%)	0/0/10/10	20	30	40	30	20	20
最高気温(℃)	22	23	23	23	24	24	25
最低気温(℃)	11	14	14	15	15	14	16

降水確率の1日目は、0-6/6-12/12-18/18-24時です。

【和歌山県の海上の波】

北部 26日 3メートル 27日 2メートル → 1メートル
南部 26日 3メートル 27日 2メートル → 2.5メートル

第 5.1.2 図 台風第 12 号の被災地に関する天気解説資料 (大阪管区气象台発表)

河道閉塞地点付近に対する雨量予測資料

復旧作業担当者向け専門資料

平成24年2月22日17時

大阪管区气象台発表

3時間雨量は付近の最大値です。 *積算雨量は上記3時間雨量を積算した値です。		日		23日						
		22日		23日						
		時刻	18-21時	21-24時	00-03時	03-06時	06-09時	09-12時	12-15時	15-18時
奈良県	五條市大塔町赤谷付近	3時間雨量(ミリ)	0	5	5	5	5	10	5	0
		積算雨量(ミリ)	0	5	10	15	20	30	35	35
奈良県	十津川村長殿付近	3時間雨量(ミリ)	0	5	5	5	5	10	5	0
		積算雨量(ミリ)	0	5	10	15	20	30	35	35
奈良県	十津川村栗平付近	3時間雨量(ミリ)	0	5	5	5	5	10	5	0
		積算雨量(ミリ)	0	5	10	15	20	30	35	35
奈良県	野迫川村北殿付近	3時間雨量(ミリ)	0	5	5	5	5	10	5	0
		積算雨量(ミリ)	0	5	10	15	20	30	35	35
和歌山県	田辺市熊野付近	3時間雨量(ミリ)	0	5	5	5	10	15	5	0
		積算雨量(ミリ)	0	5	10	15	25	40	45	45

【予報に関する補足】

- ◎ 16時現在、奈良県南部及び和歌山県南部では、1時間に1～3ミリの雨量を観測しているところがあります。
- ◎ 雨は23日6時～12時にピークとなる見込みです。
- ◎ 0ミリを予想している時間帯でも、弱い雨が降る見込みです。

第 5.1.3 図 河道閉塞地点付近に対する雨量予測資料（大阪管区气象台発表）

14日)から、提供頻度は1日2回(11時及び17時)とした。同整備局等が実施している緊急工事の進捗に伴い、同整備局の体制縮小により、12月7日以降は一雨30ミリ以上等、さらに緊急工事が進んだ2012年6月28日以降は一雨80ミリ以上が予想された場合や同整備局から依頼があった場合に提供することとした。

(3) 被災地域雨量判定結果

「被災地域雨量判定結果」(第5.1.4図)とは、平成20年岩手・宮城内陸地震の際に発生した河道閉塞への災害復旧作業等の退避判断を支援するため、仙台管区气象台と東北地方整備局が調整を行い、仙台管区气象台から東北地方整備局へ提供

した予測資料である。これには、「退避雨量判定」と「流域雨量」の二つの内容が含まれる。

9月18日に近畿地方整備局から大阪管区气象台に、河道閉塞地点付近の水位予測に使用するため、1時間ごとの流域平均雨量の提供について要望があった。この要望については、本庁予報部の協力を得ながら当台予報課及び通信課が準備を進めた。

資料の提供は、「流域雨量」については9月19日から開始し、提供頻度は毎時とした。当初はFAXにより提供し、同月21日からはメールによる提供に切替えた。

「退避雨量判定」は、気象庁側の準備が整った11月9日から提供を開始した。

カンシヨドクジ81 オオサカ

被災地域雨量判定結果 2012年02月07日06時26分 大阪管区气象台

<退避雨量判定> 単位(ミリ)

地域名	実況	1時間後	2時間後	3時間後	退避雨量に達する時刻
(奈良県)					
栗平	◎	◎	◎	○	退避雨量に到達
1時間雨量	11	9	8	0	
赤谷	◎	◎	○	—	退避雨量に到達
1時間雨量	10	9	7	0	
長殿	◎	◎	◎	—	退避雨量に到達
1時間雨量	9	8	8	0	
北股	※	◎	○	—	退避雨量に到達
1時間雨量	9	9	6	0	
(和歌山県)					
熊野	※	◎	◎	●	退避雨量に到達
1時間雨量	16	22	12	0	

(奈良県)
[判定] ー:なし ○:1時間1ミリ以上 ◎:1時間10ミリ以上 ●:3時間30ミリ以上 ※:◎●両方の基準以上
(和歌山県)
[判定] ー:なし ○:1時間1ミリ以上 ◎:1時間10ミリ以上 ●:3時間30ミリ以上 ※:◎●両方の基準以上

予報誤差等を考慮し、判定は、広がりを持った領域内の最大値によります。
表示の1時間雨量は、領域内の平均値です。

<流域雨量> 単位(ミリ)

地域名	実況	1時間後	2時間後	3時間後
(奈良県)				
栗平	11	10	8	0
赤谷	10	10	7	0
長殿	9	7	7	0
北股	8	8	6	0
(和歌山県)				
熊野	16	22	15	1

解析雨量時刻 2012年02月07日06時00分
降水短時間予報 2012年02月07日06時00分

第 5.1.4 図 被災地域雨量判定結果 (大阪管区气象台発表)

5.1.2 県や市町村への支援

5.1.2.1 県等への支援

奈良及び和歌山の両地方气象台は、災害復旧活動を支援するため、県災害対策本部会議（幹事会議を含む）に参加し気象解説を実施した。また、災害時気象支援資料を05時頃及び17時頃の1日2回、期間は、奈良県へは9月5日17時から9月30日17時まで、和歌山県へは9月4日17時30分から9月6日17時30分まで提供した。加えて、大雨注意報発表中においては「流域雨量」を毎時提供した。

この他、府県気象情報においては24時間以上先の予想雨量を記述する運用を9月14日から、避難行動を促す内容を記述する運用を9月16日から2012年2月8日まで実施した。

5.1.2.2 河道閉塞にかかる協議会

近畿地方整備局が9月8日に土砂災害緊急情報

を発表したことを受けて、各市村（和歌山県田辺市、奈良県五條市、同県野迫川村及び十津川村）では、二次災害の防止等のために9月16日に警戒区域を設定した。これらの警戒区域等の設定や区域への立入、一時帰宅、避難指示等について関係機関が連携して対応を協議することを目的として、奈良県五條市及び和歌山県田辺市では22日に、奈良県野迫川村及び十津川村では23日に協議会（和歌山県田辺市における名称は、田辺市熊野地区河道閉塞対策協議会、奈良県各市村における名称は、土砂災害緊急情報現地対策協議会。以下、いずれも「協議会」と記述する。）がそれぞれ設置された。

これらの協議会に奈良及び和歌山両地方气象台が参画し、一時帰宅等の実施判断に資する気象の解説を解説要員が行った。加えて、同協議会に合わせて開催された各市村の災害対策本部会議にも出席し、気象の解説を行った。

23日には、奈良県野迫川村と十津川村で協議会が同日に開催されたことから、十津川村の協議会へは奈良地方気象台の代理として大阪管区気象台職員が出席した。十津川村へのアクセスが困難であったため、同村協議会への出席にあたっては近畿地方整備局の協力で同整備局が管理するヘリコプターなどを移動手段とした。

河道閉塞の緊急工事が進んで、近畿地方整備局から重大な土砂災害の発生する可能性は低くなった旨の「土砂災害防止法に基づく緊急調査の随時情報」が該当市村に順次発表された。発表を受けた各市村では協議会が警戒区域の解除を決定し、12月3日には和歌山県田辺市の、同月23日には

奈良県野迫川村の、2012年2月8日には奈良県野迫川村及び十津川村の各協議会が解散した。

5.1.2.3 台風第12号被災地向けの気象情報

被災者及び被災地で復旧活動にあたる担当者向けに9月5日19時から、「台風第12号に係るポータルサイト」を気象庁ホームページに開設した。掲載資料は、台風第12号の概要や奈良、和歌山、三重各県の被災市町村ごとの気象予測資料並びに関係機関へのリンクなどである。第5.1.5図及び5.1.6図は被災市町村ごとの気象予測資料の例である。

ポータルサイト開設について、被災した県の担

台風第12号被災地向け気象支援資料（奈良県上北山村）

平成23年9月21日 5時00分

奈良県の天気解説

今日の奈良県は、台風第15号が接近するため雨が降り、南部を中心に雷を伴った非常に激しい雨の降る所があるでしょう。また、風が非常に強い見込みです。

<天気変化等の留意点>

奈良県では今日は雨や雷雨となり、南部では非常に激しく降る所がある見込みです。台風第12号による記録的な大雨により災害の発生した地域では、引き続き新たな土砂災害の発生に警戒して下さい。夕方にかけて風が非常に強い見込みです。飛散物等に注意して下さい。明日は湿った空気と寒気の影響で弱い雨の降るところがあります。気温は平年並みとなる見込みです。

上北山村付近の天気

日 / 気温	21日 / 日中の最高23℃						22日	
	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時
天気								
3時間雨量(ミリ)	10以上	10以上	10以上	10以上	10以上	5~9	1~4	1~4
気温(℃)	20	22	21	21	20	19	18	18
風向								
風速(m/s)	20	20	20	20	15	8	2	2

風向 0m/s 1-4m/s 5-9m/s 10m/s以上

気温は各時間帯の初めの時間の予想値です。例えば18-21なら18時の予想値です。

週間天気予報（奈良県 気温：奈良）

日	21日(水)	22日(木)	23日(金)	24日(土)	25日(日)	26日(月)	27日(火)
天気	雨で暴風を伴う 	曇後晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	晴時々曇 	曇時々晴
降水確率(%)	90/80/50	30/20/10/0	20	20	30	20	30
最高気温(℃)	26	24	27	28	28	29	28
最低気温(℃)	17	20	14	15	17	17	17

降水確率の1日目は、6-12/12-18/18-24時、2日目は、0-6/6-12/12-18/18-24時です。

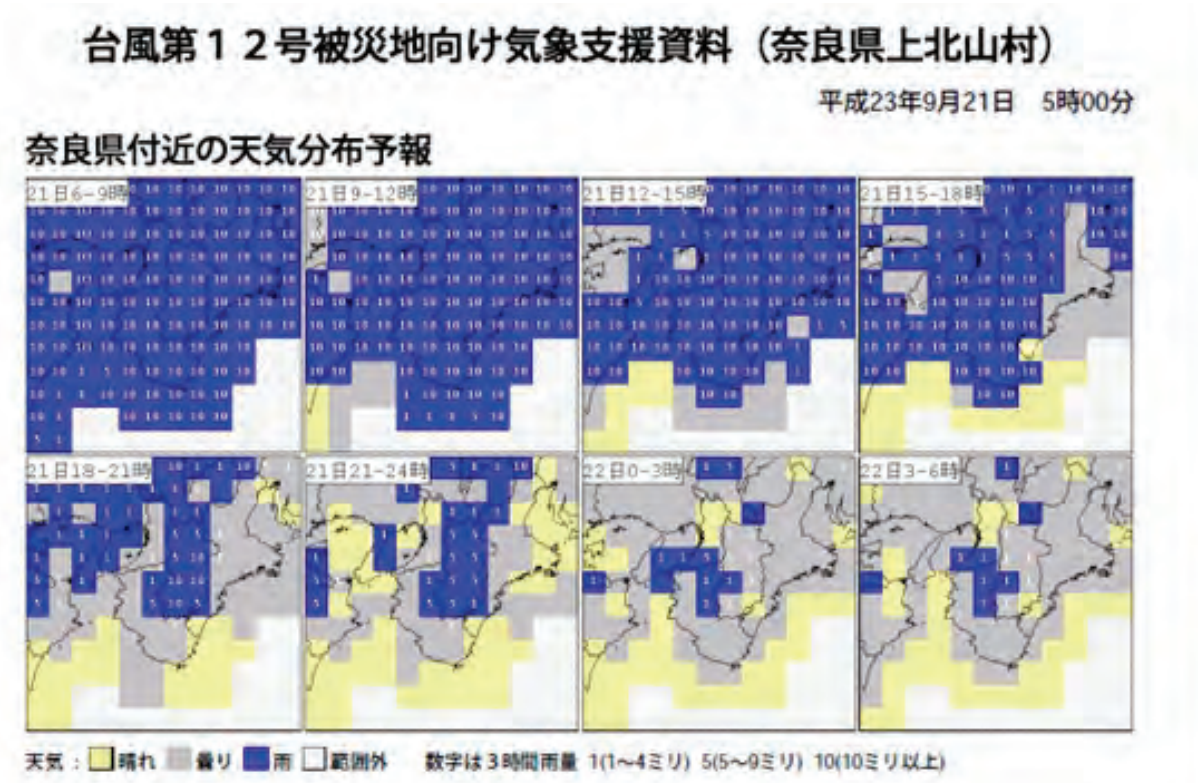
第5.1.5図 台風第12号被災地向け気象支援資料1ページ目（奈良県上北山村の例）

当者に管内官署を通じて周知するとともに、利用者の利便性を高めるため当管内官署の各ホームページに本サイトへのリンク(バナー)を掲載した。

また、同サイトは被災地のみならず、被災地へ支援を実施する担当者にも活用いただくことを目的としていることから、被災していない府県の担当者へも管内官署を通じて同サイト開設を周知した。

5.1.3 政府調査団等への対応

奈良、和歌山、三重各県の被災地の状況及び現地の対応等の把握のため、同地に政府調査団等が派遣された。それらの視察時には当庁が気象の解説や資料の提供を行った。



第 5.1.6 図 台風第12号被災地向け気象支援資料 2 ページ目 (奈良県上北山村の例)

5.2 東北地方太平洋沖地震で被災した東北地方における台風等に係る気象支援業務*

5.2.1 気象支援班の概略

気象庁は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による広域かつ甚大な被害を踏まえ、被災地における復旧・復興活動や防災活動を行っている機関等に対し、気象情報による支援を的確に行うための効果的・効率的な体制を構築するために、仙台管区気象台予報課に「東日本大震災復旧・復興対応気象支援班」（以下、気象支援班）を5月9日に設置した。気象支援班は、管区予報課の班長と副班長2名のほか、本庁及び各管区からの派遣要員により構成されている。

気象支援班の任務は大きく二つに分けられる。まず一つ目としては、被災地における気象情報に対するニーズの把握である。今回の東北地方太平洋沖地震の被害に対して、実施している復旧・復興活動や防災活動の内容、及びその活動に伴い必要とされる気象情報を把握する必要がある。このため気象支援班設置の周知とニーズの把握のために、平成23年の出水期前に被災地の復旧・復興活動や防災活動において主たる役割を担っている東北地方整備局、東北農政局、第二管区海上保安本部、陸上自衛隊東北方面総監部、東北運輸局、東北地方測量部といったブロック機関を訪問した。また、秋には復旧・復興活動の最新事情の把握と冬季の気象情報のニーズ把握のために、同機関を再訪し聞き取りを行った。

二つ目として、この把握したニーズに合致した気象情報の提供である。今回の震災においては、津波や地震に伴う地盤沈下など、影響が広域に及び、かつ長期間続くことから、気象情報へのニーズも既存の対応では収まらないものもあった。このため、本庁と気象支援班で協力しつつ情報を作成し提供を開始した。

気象支援班が提供している主な情報はつぎのとおり。

①明日（今日）の防災気象情報

これは被災地の復旧・復興活動を管理する部署が明日の工事計画等を立てるための情報として、

雨・雪・風・波などについて目安を超えると予想した時にPCメールにて夕方（昼前）に提供する情報である（第5.2.1図）。

平成23年6月22日より、東北地方整備局、東北農政局、東京航空局、東北森林管理局、水産庁、東北運輸局、第二管区海上保安本部、陸上自衛隊東北方面総監部、宮城県、仙台市に対して雨の見通しについて「大雨の予想」として提供を開始した。

また、平成23年11月14日より提供先は変更せず、新たに雪なども予想の対象に加え、「明日（今日）の防災気象情報」と名称を変更して提供を開始した。

②地域の防災情報

これは復旧・復興活動において屋外などの気象情報等を入手しにくい環境で作業管理に従事している方々に対して、顕著現象が始まった、若しくは現象の見通しが予想より早まった場合に、作業現場での実況監視を促すための情報として携帯電話向けにメールで提供する情報である（第5.2.2図）。

平成23年9月20日より、復旧・復興に携わっているブロック機関や県・市町村及び一部作業を請け負っている民間業者に対して提供を開始した。

③潮位雨量図

これは地盤沈下と排水施設の損傷により、満潮と強い雨の時間帯が重なると、浸水が非常に起こりやすくなっていることから、排水設備の臨時の増設などに利活用してもらうために、潮位の予測と雨量の予測を一つにまとめた図としてメールにて提供する情報である（第5.2.3図）。

平成23年7月7日より、東北地方整備局、東北農政局に提供を開始した。また、8月22日に宮城県を、9月20日に宮城県内の沿岸市町を提供先に追加することとなった。

④浸水予測マップ

これは地点の標高と潮位の予測を比較し、大潮期間中において満潮時に浸水すると予想される地域を地図上に表示した図を作成し、満潮時の浸水

* 仙台管区気象台 小畑 英樹（現 福島地方気象台）

明日にかけての宮城県の前・風・波・高潮の見通しについて、お知らせします。

【雪】
7日18時から8日18時までの12時間毎の降雪量

地域	7日18時～8日06時	8日06時～18時
東部	平野部 5～9cm	5～9cm
西部	平野部 5～9cm	10～19cm
	山沿い 10～19cm	20cm以上

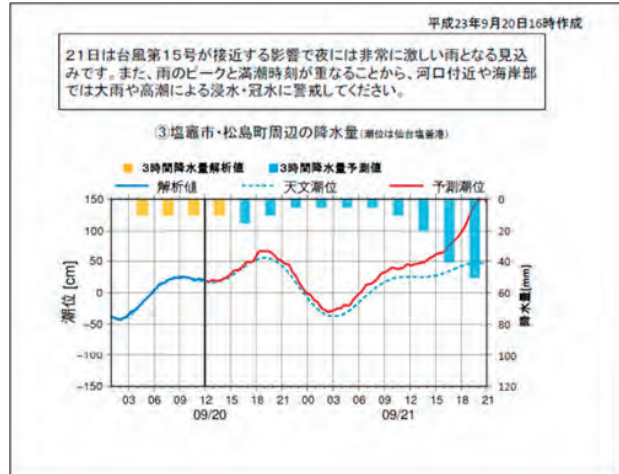
7日夜遅くから8日昼過ぎにかけて雪となり、ピークは8日明け方
東部平野部の降雪は、北部中心となる見込み

【風と波】
風は、8日明け方から9日にかけて、北西の風、陸上15メートル、海上25メートル、
ピークは8日明け方から夕方
波は、8日明け方から9日にかけて、6メートルの大しげ
沿岸風のため沿岸部の波は、これより低い見込み
ピークは8日明け方から夕方

【警報の見通し】
大雪警報は、西部を対象に8日明け方から昼過ぎにかけて発表する可能性があります。
暴風・波浪警報は、7日夜遅くに、東部を対象に発表する見込み
高潮警報は、8日夕方まで継続の見込み

7日夕方に、「暴風と高波に関する宮城県気象情報」を発表する予定です。

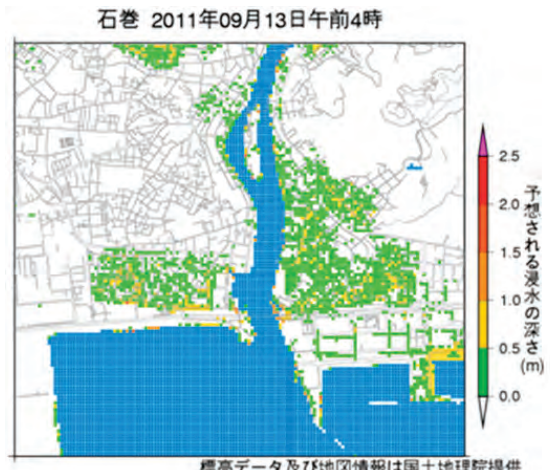
第 5.2.1 図 明日の防災情報提供例



第 5.2.3 図 潮位雨量図(台風第15号提供例)



第 5.2.2 図 地域の防災情報イメージ図



第 5.2.4 図 浸水予測マップ(石巻市の例)

地域の立ち入り禁止や道路の通行止めの判断等に利用してもらう図としてメールにて提供する情報である(第5.2.4図)。

平成23年9月15日より、東北地方整備局、東北農政局、宮城県、気仙沼市、石巻市に提供を開始した。また、平成24年1月5日に岩手県、宮古市、釜石市、大船渡市を提供先に追加することとなった。

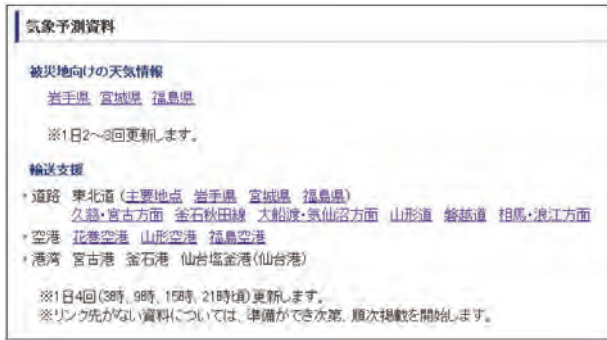
ほかにも、他の機関と比較して早めの体制を組む東北地方整備局に対しては、「明日の防災気象情報」よりも少ない雨量を目安に「雨の見通し」の提供も実施している。

これらの気象支援班が提供している防災気象情報は、提供先の関係機関において翌日の計画立案や大雨時の防災対応などに活用され、おおむね好

評を得ている。

5.2.2 被災者、関係機関への気象支援資料について

気象庁では東北地方太平洋沖地震に伴う応急対策等を支援するために、気象庁ホームページ内に「東日本大震災～東北地方太平洋沖地震～関連ポータルサイト」を平成23年3月16日に立ち上げ、地震・津波関連資料のほかに、被災者や各関係機関向けに被災地のニーズに対応した気象支援資料の提供を開始した。ポータルサイトの開設当初は、被災地の救難・救助や捜索活動、被災地への物資等の輸送を支援する資料を中心に提供を行った(第5.2.5図)。その後、被災地での活動内容が徐々に復旧・復興へ移行していくことに伴い、



第 5.2.5 図 開設時のポータルサイト

支援資料も避難所へ避難している方々の生活の支援や復旧作業を行っている機関などの支援を対象としたものを新たに提供するなど、その時の状況に適合した情報の提供を行った。これらのニーズの把握には、現地災害対策本部会議での各機関からの作業状況報告や、気象支援班などによる関係機関への聞き取り結果などを活用した。

また、仙台管区气象台では、津波により防災行政無線が壊滅的な被害を受けた被災地における防災気象情報の入手手段としてラジオが有効であるとの情報を得て、既存のラジオ局に対してラジオでの防災気象情報の放送が被災地などにとっていかに重要であるかを説明し、放送への更なる協力をお願いした。同時に、各被災地で立ち上がっていた「さいがいエフエム」や「コミュニティ放送局」等に対して、防災気象情報の入手手段として防災情報提供システムを紹介するとともに、气象台が望ましいと考えている防災気象情報から放送原稿への活用方法についても説明を行った。これらの放送局では、大雨時などに警報が発表されたことを放送し一般住民に注意を呼び掛けるなど、防災気象情報が活用されている。

5.2.3 台風第 15 号接近時に実施した関係機関への支援内容

仙台管内では、台風第 15 号の接近に伴い、事前の対応として、各県において台風説明会を開催し防災機関や報道機関に説明を行うとともに、報道機関等を通じて広く一般住民へも警戒を呼びかけた。気象支援班では、台風説明会に参加できなかった関係機関に台風説明会で使用した資料をメールで送付するとともに、通常は夕方の一回の提供としている「潮位雨量図」や「明日の防災気象情報」などについても、台風の影響が予想される当日と前日に臨時の対処としてそれぞれ昼前と夕方の 2 回提供を行った。

台風第 15 号の際には、大雨や暴風・高波が発生したほか、台風の接近と満潮時刻が重なったことや地震による地盤沈下の影響があったことから、高潮による浸水害が沿岸部で多発した。事後の聞き取り調査によると、気象支援班で提供を行った浸水予測マップや潮位雨量図をもとに避難勧告対象地域の絞り込みを行うなど、防災対応に役立ったと報告されている。

その他、自治体の支援としては、仙台管区气象台では、臨時に開催された宮城県災害対策本部会議において台風第 15 号の影響について説明を行ったほか、台風説明会の資料を県の教育機関に提供した。提供を受けた教育機関では、この資料を臨時休校などの判断材料として活用したところもあった。

他の県においても、防災気象情報の提供のほかに、ホットラインを用いて自治体防災担当者に直接警戒の呼び掛けを行ったところもあった。また、東日本大震災により、これまで人の住んでいない所に仮設住宅を建設した自治体もあり、このような場所では、どの位の雨でどのような状態になるのかが地元自治体でも未経験であるため、今後の気象の見通しを頻繁に確認して防災体制を即応させるため、ホットラインによる問い合わせが度々あった。

